



土師質土器 皿



土師質土器 皿（煤が付着したもの）



土師質土器 皿（ミガキ・ナデ）



土師質土器 焼塙壺

序 文

若林城は現在の仙台市発展の基礎を築いた仙台藩祖 伊達政宗が仙台城築城の後に造営し、晩年の居所とした城です。「若林」の地名は政宗が命名したとされ、現在それが区名にもなっていることから、市民にとっては特別な遺跡と言えます。しかし現在の城跡は明治以来、矯正施設へと変貌したことから、市民が容易に親しめる状況には無く、かつての発掘調査においても、この城がどのようなものであったかをうかがい知ることは出来ませんでした。

そのような中、全国的な矯正施設の老朽化と収容者の急増により、平成16年に宮城刑務所の全体改築計画が持ち上がりました。これに伴い開始した第4次調査で若林城の遺構を初めて発見して以降、昨年度の第10次調査までの調査において、数多くの建物跡や池跡、さらには堀跡や樋跡などの特筆すべき遺構も続々と発見され、これらがまさに政宗が晩年を過ごした若林城の御殿であることを確認するに至りました。江戸時代初めの城の御殿跡をこれほどまとまって発見した例は全国的にみても皆無に等しく、近世城郭研究上、多大な成果をあげたといえます。このような城の実態は、戦国の世を生き抜き、「最後の戦国武将」と称される政宗の考え方や嗜好を知る上でも極めて貴重なものといえます。また今回の第11次調査においては廃棄された土器などが多数出土したこと、城内での暮らしぶりを知る上で大きな成果を上げることができました。

本市はこれまで法務省、文化庁、宮城県との四者間で若林城跡の遺構の保存についての協議を重ね、その結果、発見した城の遺構は壊されること無く、将来にわたり保存される事となりました。仙台市民に限らず、近年の戦国武将ブームの中、伊達政宗への関心は高いところですが、本市としましても若林城跡を国史跡の指定を受けるべく、現在関係機関と調整を行っているところです。そのためにも本書が研究者のみならず幅広く活用されることで、文化財保護活動や郷土理解への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、この度の調査ならびに報告書の作成に際し、多大な御協力を頂きました宮城刑務所をはじめ、御指導いただいた方々に対し、深く感謝申し上げる次第です。

平成23年3月

仙台市教育委員会
教育長 青沼 一民

例　　言

1. 本書は平成22年度に実施した、宮城刑務所全体改築計画に伴う若林城跡第11次発掘調査の成果を記録した調査報告書である。
2. 第11次発掘調査の成果は年度内に刊行した資料や報告等により既に公表されているが、本書の内容はこれらの全てに優先するものである。
3. 発掘調査と整理・報告書作成作業は仙台市教育委員会の監理のもと、株式会社イビソクが担当した。
4. 出土遺物の整理や各種図面類の作成、ならびに本書の作成作業は、仙台市文化財課仙台城史跡調査室 佐藤淳と、株式会社イビソク 瀬戸かな子・服部英世が行った。
5. 本書の編集は佐藤と瀬戸が行った。また原稿等の執筆は下記のとおり分担したが、第5章第1節については佐藤と瀬戸、第2節については佐藤と服部との協議による。

佐藤　淳　　第1章、第2章第2節

瀬戸かな子　第2章第1節・第3節・第4節、第3章第1節～第4節

服部　英世　　第3章第5節

6. 出土した陶磁器等の産地や年代の鑑定は佐藤洋が行った。
7. 第4章の自然科学分析のうち、花粉分析については株式会社古環境研究所に依頼し、また動植物分析については株式会社パレオ・ラボに依頼した。
8. 発掘調査および報告書作成に際し、次の方々と機関からご指導・ご協力をいただいた。
天野順陽（宮城県文化財保護課）　菅野正道（仙台市博物館）　井上喜久男（愛知県陶磁資料館）　高橋健太郎（豊田市郷土資料館）　平田禎文（三春町歴史民俗資料館）
法務省仙台矯正管区　宮城刑務所
9. 発掘調査や報告書作成時の図面・写真・出土遺物などの資料や諸記録は仙台市教育委員会が保管している。

（敬称略・順不同）